

社会的ニーズを踏まえた情報の高度化の考え方

- 気象庁が提供する1週間から数か月先の情報の利用者と役割
- 1週間から数か月先の情報の技術的前提となる予測可能性

検討事項

- 気象庁が提供する1週間から数か月先の情報の利用者と役割について
(気象庁と民間気象事業者との連携を含む)

気象庁が提供する1週間から数か月先の情報の利用者と役割

前回の委員ご意見

- 誰に向けた情報かを整理する必要がある。
- 長期予報は、備えに資する情報として位置付けることが重要。
- 一般利用者の視点の取り込みや、気象庁と民間の役割分担の整理が必要。
- 各業界のニーズについて、実現までに要する時間や難易度を整理し、共通項目と業界専門項目に仕分け、気象庁が取り組むべき共通項目のターゲットをどこに置くかを議論するとよい。

気象庁が提供する情報の利用者と役割（案）

① 社会全体で利用する公益性の高い情報

- 早めの防災対策、早めの備えのための情報

② 産業分野での高度な利用を支援する情報

- 様々な産業分野に共通するニーズに応える情報
- 民間気象事業者のきめ細かな個別サービスを支援するデータや解説



① 社会全体で利用する
公益性の高い情報

② 産業分野での高度な
利用を支援する情報

早めの防災対策や早めの備えのための情報



除排雪の準備、水や電力の管理、
大雨等の対応準備、人員の確保

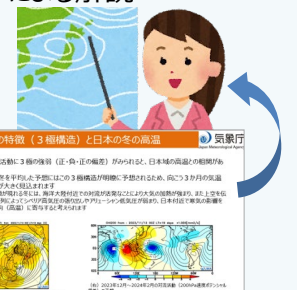


災害への備え



熱中症対策

報道や民間気象事業者
による解説



FASHION



様々な産業分野の生産性向上

共通するニーズに応える情報

個別サービスを支援するデータや解説

官民で連携してより安心で豊かな社会に

1週間から数か月先の情報の技術的前提となる予測可能性

- 一般的にリードタイムが長くなるにつれて予測の不確実性は大きくなるが、リードタイムの長さに応じて予測可能な現象（時間・空間スケール）がある。
- 把握した社会的ニーズと、現在の技術水準で予測可能な現象と対象期間を考慮して、情報の具体案を作成。

現在の技術水準（2030年までの予定を含む）

2週間先まで

低気圧・高気圧の発達や衰弱、移動などが予測できる。
天気や気温の変化、大雨や大雪などの顕著現象の発生可能性を府県ごとに日別で予測可能。

1か月先まで

偏西風の蛇行やそれに影響を与える熱帯季節内変動などが予測できる。
天候や気温の傾向、かなり高い/かなり低い気温の発生可能性を地方ごとに週別に予測可能。

3か月先まで

エルニーニョ現象等のゆっくりした熱帯大気海洋変動やその影響を受けた偏西風の位置などが予測できる。
天候や気温の傾向などを、より精度良く、地方ごとに月別で予測可能。

